



ゴミをへらす

じゅんがんだしやかい
循環型社会

このページではゴミをへらし、限りある資源をくり返し利用する循環型社会のすがたと、その社会をつくるために商社が取り組んでいる活動を学びます。

じゅんがんだしやかい
循環型社会を歩く

商社の取り組み 循環型社会を実現(じつげん)するために

● 家電・パソコンのリサイクル

家電製品やパソコンには、再利用できる貴重(きちょう)な資源がたくさんふくまれています。そこで資源の少ない日本では、この資源を再利用するために2001年に「[家電リサイクル法](#)」「[資源有効利用促進法](#)(しげんゆうこうりようそくしんほう)」が作り、テレビ、冷蔵庫、エアコン、洗濯機・衣類乾燥機(いるいかんそうき)の家電4製品とパソコンの[リサイクル](#)が始まりました。商社では、[リサイクル](#)が義務づけられているこれらの家電4製品やパソコンをはじめとする、さまざまな電化製品の[リサイクル](#)に取り組んでいます。

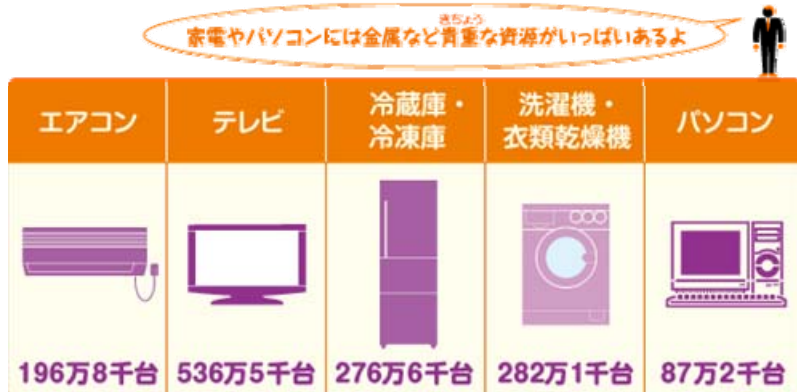


1年間に廃棄(はいき)された家電・パソコンは1,377万台!

平成20年度に[リサイクル](#)されたテレビ、冷蔵庫、エアコン、洗濯機・衣類乾燥機(いるいかんそうき)の家電4製品とパソコンの合計は1,377万台※。なかでもテレビは、地上デジタル放送対応(たいおう)の機種(きしゅ)への買い換え需要(じゅよう)から、536万台※も廃棄処分(はいきしょぶん)されています。[リサイクル](#)が行われる以前は、多くの電化製品が埋(う)め立て処分(しょぶん)されていました。再利用できる資源をゴミとして捨(す)てていたのです。

※出典:財団法人家電製品協会及び一般社団法人パソコン3R推進協会

■回収(かいしゅう)された家電・パソコンの台数(平成20年度)



(クリックで大きくなります)

※出典:財団法人家電製品協会及び一般社団法人パソコン3R推進協会

電化製品は資源の宝庫（ほうこ）

電化製品には、金、銀、鉄、アルミ、銅などの金属類、プラスチック、ガラスなどの資源がたくさん使用されています。テレビ、冷蔵庫、エアコン、洗濯機・衣類乾燥機（いるいかんそうき）の家電4製品では、75～90%がこれらの資源に再生することができます。また近年は、[レアメタル](#)と呼ばれる世界でも採（と）れる量が少ない大切な貴重（きちょう）な金属がたくさんふくまれていることから、携帯電話（けいたいでんわ）の[リサイクル](#)も積極的（せっきよくてき）に行われるようになってきました。なお、冷蔵庫、エアコン、一部の衣類乾燥機には、[オゾン層](#)をこわす[フロン](#)が使用されているため、[リサイクル](#)のときに回収（かいしゅう）されて、専門処理施設（せんもんしよりせつ）で1,000℃以上の高温で燃やしたり、化学分解（かがくぶんかい）して無害化（むがい）するなどの処理（しより）が行われます。

商社が行っている「家電・パソコンのリサイクル」

商社は家電・パソコンをはじめ、さまざまな製品の[リサイクル](#)を進めています。たとえば、オフィスで不要になった電化製品やパソコンの買い取りから、[リユース品](#)〔再利用品〕としての販売、[リサイクル](#)処理（しより）までを一括（いっかつ）して行う全国サービスや、2011年のアナログ放送終了に向けて廃棄量（はいきりょう）が増えているブラウン管テレビを[リサイクル](#)し、再生原料として海外ガラスメーカーに販売する事業（じぎょう）などを行っています。また、海外の金属・家電[リサイクル](#)会社に出資（しゅつし）して、アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランドなど、世界のさまざまな国・地域（ちいき）での[リサイクル](#)事業にも取り組んでいます。このように日頃使用しているさまざまな家電製品やパソコンが、商社の[リサイクル](#)事業を通して、日本国内や海外において新たな資源として生まれ変わっています。



家電の[リサイクル](#)



ノートパソコンのリユース品

▲ページの先頭へ